

# 老年看護学実習

## 目 的

老年期にある対象の発達段階と加齢変化および健康障害による問題を把握し、その人らしく生活できるよう個別的な看護を実践できる能力を養う。

## 目 標

1. 老年期にある対象の身体的・精神的・社会的特徴と、生活史や老いの現れ方および健康の段階から対象を理解できる。
2. 加齢変化と疾病および生活習慣から生じる健康障害の複雑性を理解し、そのレベルに応じた援助ができる。
3. ソーシャルサポートが対象の療養生活において、どのような役割を果たしているのか理解できる。
4. 老年期にある対象の生活信条、信念、価値観を尊重した行動がとれる。
5. 多様な生活の場に応じた退院支援の在り方が理解できる。
6. 保健医療福祉チームとして、自覚と責任のある行動がとれる。

# 老年看護学実習 I

(老人福祉センター・総合的ケアサービス施設・病院実習)

## 目的

老年期にある対象の発達段階と特徴を知り、加齢や疾患が身体的・精神的・社会的側面に及ぼす影響について理解し、健康障害に応じた看護の実際を学ぶ。

## 目標

1. 老年期にある対象を身体的・精神的・社会的側面から総合的に理解できる。
2. 対象の健康障害の複雑さ多様性を理解し、健康障害に応じた援助ができる。
3. 対象の生活史を尊重した援助ができる。
4. 対象の個別性に応じた、安全で安楽な援助ができる。
5. 対象に必要な社会資源の活用について知ることができ、保健医療福祉チームの一員として看護の役割を認識できる。

## 内容

		内容	対象選定の目安	
場所	対象	学習のポイント	症状	疾患
老人福祉センター	地域で自立し生活している高齢者	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 老人福祉センターの概要と関係法規</li> <li>2. 地域で健康に生活している高齢者の特徴</li> <li>3. 日常生活状況、生活観（家族、社会参加状況）</li> <li>4. 健康観・健康行動・通院状況</li> <li>5. 人生観・価値観・生きがい</li> </ol>		
総合的ケアサービス施設 ・介護老人福祉施設（特別養護老人ホーム） ・軽費老人ホーム（ケアハウス） ・療養型病床群併設病院	様々な介護サービス施設にて生活している高齢者	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 各施設の入所の条件</li> <li>2. 各施設の対象の特徴</li> <li>3. 各施設における生活環境の違い</li> </ol>		
		看護のポイント		
病棟実習	疾患を有し、加齢による機能低下が著しい高齢者	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 加齢変化のアセスメント</li> <li>2. 日常生活援助 <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 残存機能を活かした援助</li> <li>2) 廃用を予防するための援助</li> <li>3) 安全・安楽を守るための援助</li> <li>4) 身体拘束のアセスメント</li> </ol> </li> <li>3. 生活リズムの確立のための援助</li> <li>4. コミュニケーション障害への援助</li> <li>5. 精神的な安定への援助</li> <li>6. 患者・家族指導</li> <li>7. 社会資源活用への援助</li> </ol>	発熱 疼痛 痒痒（かゆみ） 脱水 嘔吐 浮腫 倦怠感 呼吸困難 動悸 排泄機能障害 運動機能障害 感覚機能障害 嚥下障害 高次脳機能障害 見当識障害 睡眠障害 老人性うつ ……など	認知症 悪性新生物 脳血管障害 神経難病 虚血性心疾患 高血圧症 肺炎 閉鎖性肺疾患 変形性関節症 骨粗鬆症 骨折 皮膚痒疹症 褥瘡 腎不全 白内障・緑内障 MRSA 感染症 尿路感染症 ……など

# 方 法

## <学内実習>

ねらい: 高齢者の特性を踏まえたコミュニケーションと日常生活援助の演習を通して、実習に向けての看護のイメージ化を図る。

1. 実習開始前に、実習グループごとに行う。
2. 演習内容
  - 1) 『高齢者との対話』のビデオ学習
  - 2) 実習に臨むにあたり、高齢者の看護に必要な技術を実施する。
3. 15:15~16:30は、学内にてカンファレンスや指導を受ける時間とする。

## <老人福祉センター>

1. 老人福祉センターの概要について、オリエンテーションを受ける。
2. 老人福祉センターで行われている行事に参加し、健康な高齢者と交流を図る。
3. 実習終了後は、「老人福祉センターで学んだことと今後の課題」について、規定の記録用紙に記載する。

## <総合的ケアサービス施設>

1. 施設の概要について、オリエンテーションを受ける。
2. 施設における高齢者の様々な生活環境を見学する。
3. 実習終了後は、「総合的ケアサービス施設を見学して学んだことと今後の課題」について規定の記録用紙に記載する。

## <病棟>

1. 病棟オリエンテーションを受ける。
2. 対象選定の目安に該当している1名の高齢者(老年期の特徴を有する者、できれば75歳以上の後期高齢者)を受け持ち患者とする。
3. 立案した看護計画に基づいて看護を実践する。
4. テーマカンファレンスを開催する。
5. 1場面について、プロセスレコードを記載する。
6. 実習終了後は、「学んだことと今後の課題」について規定の記録用紙に記載する。

# 老年看護学実習Ⅱ

(認知症専門棟・一般療養棟・病院実習)

## 目 的

様々な健康レベルにある高齢者と高齢者を支える人々について理解し、QOL の維持・向上を目指した看護の実際を学ぶ。

## 目 標

1. 高齢者の身体的・精神的・社会的側面と、生活史や加齢変化および健康の段階から統合的に理解できる。
2. 対象の健康レベルやその人にとっての望ましい生活について理解し、個別性を考慮した安全安楽な援助ができる。
3. 対象とその家族に対し、長期的な視点で健康の保持・増進に向けた援助ができる。
4. 対象の生活に必要な社会資源の活用について理解し、保健医療福祉チームの連携・協働の視点から援助ができる。
5. 自己の老年観を養い、看護のあり方について理解できる。

# 内 容

		内容	対象選定の目安	
場所	対象	学習・看護のポイント	症状	疾患
介護老人保健施設 老健くしろ	要介護高齢者 介護老人保健施設で生活している	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 介護老人保健施設の役割・機能・介護保険法</li> <li>2. 日常生活援助（移動・食事・排泄・清潔・更衣）               <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 安全を守る援助</li> <li>2) 残存機能の維持向上のための援助</li> </ol> </li> <li>3. 認知症のある人への看護               <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 中核症状と周辺症状</li> <li>2) 症状に合わせたコミュニケーション</li> <li>3) リアリティオリエンテーション</li> </ol> </li> <li>4. 環境への適応               <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 生活リズムの確立</li> <li>2) 精神的な安定への援助</li> </ol> </li> <li>5. 尊厳を守るための援助               <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 生きがいへの援助（レクリエーション・アクティビティ）</li> <li>2) 倫理的配慮</li> </ol> </li> <li>6. 多職種との連携と社会資源の活用</li> </ol>	運動機能障害 嚥下障害 記憶障害 見当識障害 言語障害 判断力低下 感覚機能障害 ……など	認知症 脳血管障害後遺症 廃用症候群 ……など
	病棟実習	慢性に経過する疾患を有する高齢者	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 危険予測のアセスメントと看護 （転倒転落・誤嚥・誤食・窒息・外傷・褥瘡・自己抜去等）</li> <li>2. 高齢者に特有な症候・疾患・障害と看護               <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 廃用症候群 2) 脱水症 3) 摂食・嚥下障害・誤嚥性肺炎 4) 低栄養 5) 掻痒症</li> <li>6) 尿失禁 7) 便秘・下痢 8) 睡眠障害</li> <li>9) 視覚・聴覚障害 10) 骨粗鬆症 11) せん妄</li> <li>12) 認知症</li> </ol> </li> <li>3. 高齢者の終末期の看護               <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 死へのプロセスと意思決定支援</li> <li>2) 終末期における家族への看護</li> </ol> </li> <li>4. 高齢者を介護する家族への看護               <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 家族アセスメント</li> <li>2) 老老介護・認認介護</li> </ol> </li> <li>5. 介護保険制度とそのしくみ</li> <li>6. 高齢者の尊厳と権利擁護               <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 身体拘束の禁止</li> <li>2) ノーマライゼーション</li> </ol> </li> <li>7. 多職種との連携               <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 医師</li> <li>2) 理学療法士・作業療法士・言語聴覚士</li> <li>3) 栄養士・薬剤師</li> <li>4) 退院支援看護師・医療ソーシャルワーカー</li> </ol> </li> </ol>	発熱 疼痛 掻痒（かゆみ） 脱水 嘔吐 浮腫 倦怠感 動悸 呼吸困難 排泄機能障害 運動機能障害 感覚機能障害 嚥下障害 高次脳機能障害 見当識障害 睡眠障害 老人性うつ ……など

# 方 法

## <学内実習>

ねらい：危険予知・回避の姿勢を身に付け、高齢者患者の体験や日常生活援助の演習を通して老年看護の特性を理解することができる。

1. 実習開始前に、実習グループごとに行う。
2. 演習内容
  - 1) 『認知症高齢者の看護』のビデオ学習
  - 2) 危険予知トレーニング
  - 3) 実習に臨むにあたり、高齢者の看護に必要な技術を実施する。
3. 15:30~16:00 は、学内にてカンファレンスや指導を受ける時間とする。

## <老人保健施設：認知症専門棟・一般療養棟>

1. オリエンテーションを受ける。
2. 認知症の高齢者1名を2日間、要介護者1名を2日間受け持つ。
3. 施設の日課に沿って行動する。
4. カンファレンスを開催する。
5. 実習終了後は、「認知症専門棟と一般療養棟で学んだことと今後の課題」について規定の記録用紙に記載する。

## <病棟>

1. オリエンテーションを受ける。
2. 対象選定の目安に該当している1名の高齢者(老年期の特徴を有する者)を受け持ち患者とする。該当する高齢者がいない場合は、慢性に経過する疾患を有する成人を受け持ち患者とする。
3. 立案した看護計画に基づいて看護を実践する。
4. 実習終了後は、「自己の老年観」について規定の記録用紙に記載する。